

## 医療・福祉専門職教育の動向\*1

小 磯 謙 吉\*2 垣 花 昌 明\*2 野 町 啓\*2  
 小 松 美穂子\*2 伊 東 元\*2 鷺 田 孝 保\*2  
 稲 田 哲 雄\*2

### はじめに

21世紀を間近に控え、わが国が高齢社会、少子化社会を迎えんとしているのは周知の事実である。その社会が本当に豊かで幸せになるためには、優れた医療が提供されなければならない。その医療の中核となるのはチーム医療で、医師、看護婦をはじめとしてそのチームの各パートを受けもつ医療、福祉の協力が必要である。近年これの社会的ニーズにこたえるべく医療・福祉系の大学、短大、専門学校が設立され、すばらしい医療と福祉を提供できる人材の養成に力が注がれてきている。

本項ではこれらの医療、福祉系大学を中心にその教育の現状について概説する。

### 1. 医療・福祉系関連職種

現代の医療は医師・歯科医師、看護婦（助産婦、保健婦）を中心に多くの医療福祉系のスタッフによって成り立っている。これらのスタッフの養成は大学、短大、専門学校および養成学校などによって行われている。その職種は多岐にわたるが、列記すれば以下のようなものである。すなわち、医療系として理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学技士、視能訓練士、救急救命士、言語療法士、義肢装具士、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師などがある。これに加え福

祉系として介護福祉士、社会福祉士、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、保母（父）などがある。

### 2. 医療・福祉系教育

#### 1) 卒業までに修得する単位について

前項で述べたように医療、福祉系人材の養成を行う教育の現場は4年制の大学（学士の称号をうる）、3年制の短期大学（準学士の称号をうる）、および、専門学校（養成学校を含む）からなっている。したがって、その教育理念、教育目的は同じであっても、教育課程は必ずしも一致していない。しかし、文部省令では講義時間が15～30時間に達するものを1単位、実習時間が30～45時間にわたるものを1単位として換算することになっている。したがって、卒業までに修得すべき単位はほかの4年制大学と同様に大学では124単位、短大では93単位となる。専門学校などでもほぼ短大と同様の換算により教育が行われている。

#### 2) 教育課程—カリキュラム

大学の教育課程の大綱化に従ってこれまでの教養課程、およびそれに続く専門課程の枠は取りはずされており、大別すると以下のような科目群により構成されている。

基礎科目：専門教育の基礎となるもので、広い視野と豊かな人間性を養う授業。

専門基礎科目：専門に直結する基礎知識・技術を修得する科目。

専門科目：医療・福祉専門職として必要な専門的知識、技術、態度を修得する科目。

この科目は学生の専門的知識への興味にこたえ、学習意欲を高めるため1年次から専門科目の授業を設け、漸次専門科目へと移行できるように構成されているのが一般である。

\*1 Modern trends in the field of education on health sciences and welfare

キーワードズ：医療専門職、福祉専門職

\*2 Kenkichi KOISO, Masaaki KAKIHANA, Akira NOMACHI, Mihoko KOMATSU, Hajime ITO, Takayasu WASHIDA, Tetsuo INADA 茨城県立医療大学

表1. 医療系養成学校数とその定員

職 種	大 学		短 大		専門学校など		総定員
	大学数	定員	短大数	定員	専門学校数	定員	
理学療法士	10	310	15	375	64	2175	2860
作業療法士	10	310	13	295	53	1660	2265
診療放射線技師	7	410	16	1447	14	547	2404
臨床検査技士	11	625	25	1140	38	1013	2768
歯科衛生士	0	0	13	1140	121	6558	7698
臨床工学士	1	30	1	20	16	794	844
東洋医学技術者 (柔道整復師など)	1	100	0	0	36	2796	2896
義肢装具士	0	0	0	0	5	110	110
視能訓練士	2	45	0	0	10	340	385
救急救命士	0	0	0	0	4	210	210

(平成8年11月現在)

表2. 福祉系養成学校数とその定員

職 種	大 学		短 大		専門学校など		総定員
	大学数	定員	短大数	定員	専門学校数	定員	
介護福祉士	9	797	40	2105	184	18577	21479
社会福祉士	83	11634	19	2340	44	3745	17719

(平成9年3月現在)

### 3) 教育課程の内容

いわゆるシラバスで授業概要をまずあげている。これにはGIO(教育目標)、SBO(行動目標)が記述され、最終的には授業計画が述べられている。これらによって学生は授業内容の把握や毎日の授業の準備を行うことができる。

### 4) 臨床実習の実施

臨床実習は講義で学んだものを実際の臨床の場で実習するきわめて大切な授業である。しかし、医師以外の医療専門職を養成する施設で医療専門職のために単独に附属病院をもち実習が行えるのは、国公立大学では茨城県立医療大学(看護学科、理学療法学科、作業療法学科、放射線技術科学科)のみであり、私立では明治鍼灸大学(鍼灸学部鍼灸学科)のみである。ほかには医学部や医科大学の附属病院、地域の国公私立の大病院などを実習の場としている。

### 5) 教育課程の評価

教育課程の評価は受講状況(出席)および当該

科目の試験の結果を総合的に評価し、合格不合格を判定する。また、進級については各学年次に判定が行われている。

### 6) 教官について

医療・福祉系教育機関は高齢社会を目前にして数多く設立されている。それは社会的必要性に基盤を置いているためと考えられる。短大、専門学校の教官はその資格においてあまり問題はないが、大学となると問題が多い。従来、ほとんどこの種の大学がなかったこと、ましてそれぞれの専攻の大学院がなかったことにより、教官数はきわめて不足しているとされる。今後は各大学においても修士課程は無論、博士課程をも含めた大学院の設置が急務であろう。

### 7) 医療・福祉系養成学校数とその定員数

表1に医療系養成学校を、表2に福祉系のそれを示す。医療系職種のうち理学療法士、作業療法士、臨床放射線技師、臨床検査技士は4年制の大学で行われるところが増加しはじめ、その卒業生

表 3. 平成 8 年度各種国家試験の結果一覧 (発表日順)

職種名	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率 (%)
第10回義肢装具士	73	70	95.9
第9回社会福祉士	9649	2832	29.4
第9回介護福祉士	23977	12163	50.7
第5回柔道整復師	1296	1137	87.7
第6回歯科衛生士	6791	6752	99.4
第10回臨床工学技士	850	691	78.5
第32回理学療法士	1889	1797	95.1
第32回作業療法士	1152	1059	91.9
第49回診療放射線技師	2193	1859	84.8
第27回視能訓練士	315	312	99.0
第43回臨床検査技師	4800	3037	63.3
第11回救急救命士	1402	1104	78.7

1997年5月26日 医学界新聞より, 改変

は従来の短大, 医療専門学校卒業生に混じって今後それぞれの分野での活躍が期待される。これに反してそれ以外の医療系分野では, 4年制大学での教育は臨床工学士, 東洋医学技術者, および視能訓練士養成にそれぞれ1, 2校みられる。

一方, 福祉系養成校に関しては多くの大学がこれに参加している。とくに社会福祉士養成大学は83校にのぼっており, 今後の活躍に期待したい。これと同様に, 介護福祉士養成校も大学, 短大, 専門学校などで数多く行われ, 社会の必要性の大きいことを示している(表1, 2)<sup>1,2)</sup>。

#### 8) 国家資格について

医療・福祉系職種において厚生省の定める国家資格を取得するには, 職種によって2つに分かれる。すなわち, 高校卒業後, 厚生大臣の指定する養成施設(大学・短大・専門学校など)を卒業すれば国家資格がえられる場合と, 厚生大臣の定める国家試験に合格しなければならない場合とがある。

国家試験の行われている各種医療・福祉系専門職の本年度の成績を表3に示す<sup>3)</sup>。医療系では臨

床検査技師, 救急救命士, 臨床工学技士, 診療放射線技師などの合格率が低い。これに反して歯科衛生士, 視能訓練士, 理学療法士, 作業療法士の合格率は良好である。また, 福祉系では社会福祉士, 介護福祉士の合格率がきわめて不良であり, この方面の充実が望まれる。

#### おわりに

医療・福祉系教育の現状について概説した。この分野は高齢社会を迎えその質と量に対するニーズがきわめて高く, その教育と養成に万全を期す必要がある。

#### 文 献

- 1) 東京都福祉人材センター・東京都福祉人材開発センター編: Think Together 97年版, 福祉の道をめざす人の進学ガイド, 1997, p 28-126
- 2) 現代企画センター編: '97・看護・医療系学校入学ガイド。さくほう(渡辺洋一), 1996, p 162-215
- 3) 各種国家試験の結果一覧(発表順), 医学界新聞 1997年5月26日, 2240号, p 2

\* \* \*